

も此高嶺をばよまじとせり、こは此高嶺におよぶべき言の葉のいひうまじければなり、ある人この高嶺の畫に歌よみてよとこひたりしかど、しか思ひかまへしことなれば、かくさへ聞えしを猶しひてといひしかば、そのとき、

神世より雪にみがける山なればいひけがすべき言の葉もなし、とかいつけてかへしやりき、
〔桂林漫錄〕琉人詠歌

明和癸未歲來聘セル中山王ノ使者、讀谷山王子ガ詠歌若干首、予ガ撰スル所ノ琉球談ニ載セタリ、其後寛政己酉歲來聘セル義灣王子ガ詠歌アリ、

蒲原ノ間ニテ富士ヲ見テ詠メル

カギリ無キ山ヲ幾重カナガメ來テソレゾトシルキ雪ノ富士ノ根、安ラカナル調ナリ、因ニ云、俗ニ富士ノ砂、麓ニ落ツレバ、其夜ノ中ニ嶺へ還ルト、事文類聚ニ載ス、陝西鳴砂山、砂州南、其砂或隨人足而墜、經宿復還於山上、同日ノ談ト云フベシ、又吳越春秋云、一夕自來曰怪山、富士山モ怪山ナル可シ、

〔士峯錄〕富士山

詩文

〔士峯錄〕富士山

藤字歛夫

遠爲士峯成此遊、吟眸處々幾回頭、青天忽見素羅笠、羅笠檐中十五州、

同

一山高出衆峯巔、炎裏雪水上烟、太古若同仁者樂蓬萊何必覓神仙、

林道春

同

士峯左股是蓬丘、溟海漫々弱水流、烟際飛仙開藥竈、空中羽客築瓊樓、六花白盡萬餘里、一朶先寒十五州、風度陰山無九夏、窻含西嶺有千秋、宋濂新唱日東曲、徐福曾成物外遊、昔聽登高天下小、今看縮地眼邊收、辱顏歡笑相迎送、不問前程消我憂、